



ありがとう、ロータリアン！ ⑫

消えることのない思い出



ベトナム保健省母子保健局専門官

チャン・ホアン・ナム さん

出身：ベトナム

奨学期間：2010年4～9月

学校名：徳島大学大学院

世話クラブ：徳島中央RC

1999年にベトナム保健省に入省し、母子保健局に配属された私は、さまざまな医療・保健プロジェクトに参加して経験を積むうちに、さらに高度な勉強の必要性を感じて留学を決意。2006年10月、徳島大学疾患酵素学研究センターの博士課程に私費留学しました。

大学では、将来のバイオサイエンスの鍵と言われ、がんや炎症、老化などへの応用が期待されるアポトーシス（プログラムされた細胞死）をテーマに研究し、最先端の技術を習得することができました。

一方、来日当初から経済的に苦しい生活が続きました。家庭教師やパン屋でのアルバイトなどで、生活費と学費の一部を賄っていましたが、研究・実験が忙しくなり、生活のためのアルバイトとの両立に頭を悩ませました。

米山記念奨学金に応募したものの、最初の年は不合格。日本語がまだうまく話せなかったため、面接試験も難しかったのです。しかし、次の年に晴れて合格することができ、博士課程の最後の6か月間、米山記念奨学金をいただけることになりました。

日本への理解を深めた半年間

この6か月間は、実験や論文執筆に集中しなければならぬ私にとって、極めて大切な時期でした。もし、米山記念奨学金がなければ、予定通りには卒業できなかったかもしれません。安心して勉強に専念できる環境を与えてもらったことに、今でも心から感謝しています。

その上、世話クラブの皆さんには良い思い出をたくさんもらいました。徳島中央ロータリークラブ（RC）の

例会に出席するたびに温かな歓迎を受け、会員の皆さんから研究や将来のこと、日本や徳島での生活についてのアドバイスをもらいました。

カウンセラーの藤田定吉さんは、初めてお会いした時から優しく、熱心な方で、仕事が多忙であるにもかかわらず、指導教員と連絡を取り合って、私の学内での様子を把握してくれていました。また、食事会やカラオケ、国際交流会など、いろいろな所にも連れて行ってもらいました。ときどき、会員の皆さんから地元のミュージックバーに誘ってもらい、日本の音楽のライブを楽しんだことも、忘れがたい思い出です。

それまでは学業と生活のことで精いっぱい、日本の文化を楽しむ余裕はありませんでしたが、藤田さんをはじめ、徳島中央RCの皆さんのおかげでさまざまな体験ができ、日本のことをより深く理解する機会となりました。研究も予定通り進み、2010年9月、私は無事に学位を取得することができました。

心に残る職場訪問

卒業後は、ベトナム保健省母子保健局に復職しました。この部署で私は、国が抱えるさまざまな母子保健問題についての指針や基準を作成し、国内の母子保健サービスやプログラムを監視する仕事を、主に担当しています。また、日本との関わりという点では、JICA（国際協力機構）がベトナム保健省と共にいる「母子健康



ベトナムを訪問した徳島中央RCの会員と

たとえ短い付き合いであっても、一生、忘れられない出会いになることがあります。現在、ベトナム保健省の専門官として、母子保健サービスの充実に取り組むチャン・ホアン・ナムさんにとって、ロータリー米山奨学生として過ごした6か月間が、そのかけがえのない時間だったと言います。「感謝の気持ちを表す機会を探していた」というチャンさんが今回、世話クラブやカウンセラーへの思いを寄せてくれました。

手帳全国展開プロジェクト」にも参加しています。

2011年3月には、徳島中央RCの会員7人がベトナムを訪れ、半年ぶりに再会。日本から体重計、血圧計、体温計などを持参し、私の職場にそれらを贈ってくれました。ベトナムでは50を超える山岳少数民族への保健行政が今後の課題であり、母子保健局長は「日本からのプレゼントとして、山岳地域の保健センターで活用させていただきます」と、大変感謝していました。日本とベトナムとのつながりを強くしたいと願う私にとっても、それはとてもうれしく、心に残る訪問でした。

ロータリーのない母国で目指すこと

ベトナムにはロータリークラブがなく、私は米山奨学生になるまで、ロータリーの活動を何も知りませんでした。しかし、毎月の例会で報告や卓話を聞いたり、行事に参加したり、藤田さんからロータリーの使命や世界中で行っている活動について教えてもらううちに、ロータリーの精神や目指すものが何となくわかってきました。

いつか、このベトナムでもロータリーのような活動ができれば、と思いますし、まず私自身が、ロータリアンのようにほかの人の役に立てるよう、すべてに全力を尽くしたいと思います。

私は、藤田さんとの関わりや徳島中央RCでの体験をいつもほかの人に伝えたい気持ちでいっぱいです。将来、

どんなに時間がたって、どんな仕事に就いても、そして、どこに行っても、日本で皆さんと過ごした時間は、私にとって消えることのない素晴らしい思い出として、いつまでも心に残ると信じています。



藤田定吉氏から一言

チャン君は40歳という年齢もあってか、とても落ち着いていて、付き合いやすい奨学生でした。短期間でしたが、日本を知ってもらおうといろいろなところに誘い、チャン君も交流を楽しんでくれたようです。帰国の翌年、クラブの有志でベトナムの彼の職場を訪れ、少しでも山岳少数民族のためにお役に立てたことをうれしく思います。初めて会った時、「将来は日本と母国の懸け橋になりたい」と話してくれたチャン君には、その気持ちを持ち続け、がんばってほしいと願っています。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。
TEL: 03-3434-8681 FAX: 03-3578-8281
Eメール: mail@rotary-yoneyama.or.jp

台湾米山学友会の新理事長が決定！

12月15日、台湾米山学友会（中華民国扶輪米山会）の総会が台北で開かれ、約100人が出席。来賓として国際ロータリー会長ノミニの黄其光（ゲイリー C. K. ホアン）氏、台日国際扶輪親善會理事長の賴崇賢氏、日本のロータリアンら（ライスクエン）が参加しました。今回は3年に1度の役員改選で、第6代理事長として林維宏氏（1987-88 / 岡山南RC、現・台北民生RC会員）が選任され、幹事長には張逸崑氏（1997-98 / 杵築RC）が就任しました。また、台湾学友会が日本のロータリーへの恩返しとして行っている「日本人若手研究者奨学金」の奨学生が（リンウェーホン）許國文理事長（当時）から奨学金を受け、感謝のスピーチをしました。



台湾米山学友会の新役員たち